

JAL愛媛原告を支える会



ニュース



発行：JAL不当解雇とたたかう愛媛原告を支える会
 連絡先：愛媛自治労連会館3F愛媛労連内
 松山市三番町8-10-2 TEL 089-945-4526



朝日新聞デジタル

行動しなければ何も変わらない

今年の2月1日未明、クーデターを起こした国軍によってアウンサンスーチー氏が突如、拘束されたニュースを覚えていらっしゃるでしょうか。

ミャンマー在住の知人から「日本の皆さんに拡散して日本政府に抗議をしてもらってください」と毎日のように情報が届きます。

ミャンマー国民は2007年にサフラン革命を経験しており、不服従キャンペーンを開始しました。毎夜8時になると一斉にお鍋の蓋など音の出るものを叩いたり、歌を歌ったりして抗議の意思を表すのです。そして、徐々にデモを始めます。軍の取り締まりをかくぐる早朝デモ、深夜デモ、サイレ

ントデモから、若者たちが先頭に立ち、道路いっぱいパネルを立てたり、延々と靴を並べたり、小旗を敷きつめたり、靴に花を盛って町のあちこちに飾ったり、同じ色の服を着てみたり、川の中で立ち泳ぎをしながら訴えたり、毎日毎日、いろいろな工夫を凝らしたデモが国内各地で行われるようになりました。

(裏面に続く)

真実は私たちが知っている 黙っていては何も変わらない、勇気を出して 野村ダム水害訴訟原告団 西予市野村町 入江須美

世間に問題を出していくことが私たち原告団にできること。問題は歴史に残さなければならない。

粘り強く頑張っているその姿に励まされ勇気を出して、これからも皆さんと一緒に前を進みたいと思います。



「ダムは安全」と言い続けてきたのに、下流を守れなかった。なのに正しい操作だと言う。私はこの問題をこのまま終わらせてはいけない、あの放流は正しくない、そして二度と同じことが起こらないよう、その思いで闘っています。

今回、JALを解雇されて10年も頑張っている人に出会い支援していただいています。JAL争議が10年を過ぎたこと、ずっと問題を世間に出している事を聞きその力の強さを感じています。

現在私は2018年の西日本豪雨災害・野村ダムの緊急放流の問題で国を相手に裁判中です。ダムの放流で犠牲者が出たことは許されません。人が逃げることができない津波のような急激な放流、逃げ遅れた人、多くの家や財産が奪われたこと、夫が逃げ遅れ亡くなったこと、爆弾が落ちたような変わり果てた町の姿、全てに絶望したこと、毎日忘れることは出来ません。このようなダムの放流があっているのでしょうか。

ダム建設後、ダム事務所は

私も
 応援
 します

暑い中、大衆が集まっているところで子供が飲み物やお弁当を持ってウロウロしている映像が流れ、貧しい子らはこういう事態になってもしたたかだなと思つたら、熱中症にならないよう、空腹で倒れないよう、無料で水と食料を配るボランティアをしていたのでした。市民がお金を出し合つて、デモを応援しているのです。

日本でも少しずつ報道されるようになり、「ミャンマーの今を伝える会」がFacebookで逐一ミャンマーの様子をアップしてくれています。

世界各地で「ミャンマーを応援します」というプラカードを持った自撮りや、ミャンマーの国連大使が独裁への抵抗を示す指三本を掲げたことから、ピースの代わりに指3本の写真をFacebookに載せる人が増え、日本でもささやかなデモが起つたりしています。それでも日本のメディアは日本人に関わること（拘束されていた日本人ジャーナリスト解放のニュース）以外、大きく取り上げてはくれません。

現地からは、市民が公道で軍人に殴られ痛めつけられている映像、亡くなった方々の無残な姿も隠さず送られてきます。ありのままの現実を直視するといふ強い意思を感じます。

私の知人は一切外に出られず、ストレスの溜まる日々を過ごしているようです。

遮断されたテレビやラジオ、繋がりにくい電話、時間制限されたインターネット、預金引き出せない一部の銀行窓口、没収されそうになった外貨預金、現在日本からの送金は停止してもらっているそうです。

先日、歩いて1分の床屋さんに行くことにしたと嬉しそうにメッセージが届きました。それがなんと護衛付きなのだそうです。たかが1分でも、外国人はスパイと間違われるかもしれない、携帯電話を持っていたら取り上げられ、持っていなかったら罰金を払わせられる、訳がわかりません、と書いてありました。その週の彼の万歩計は合計300m。家の中をお散歩するしかないのですから、仕方ない数字です。



CNN.co.jp

クーデターから、そろそろ4カ月。デモは毎日行われ、収まるどころか、ますますバラエティに富んだお祭りのようになってきています。

サフラン色の袈裟を纏った僧侶たちの持つ蠟燭の灯り、色とりどりのフラッグを振りながら、田んぼ道を練り歩く若者たち、茶畑の中にポコポコともぐら叩きのように人が立ち、とうもろこし畑のとうもろこしの外皮に抗議文を描いてみたり、亡くなった方々の写真を墓石のように並べてみたり、一斉にパネルを

掲げて道路に広がってみたり、バイクデモ、自転車デモ、小舟デモ、Tシャツデモ、ごみデモ、小石デモ、人形デモ、ぬいぐるみデモ、キャンドルデモ、雨の日はカラフルな傘をさし、暑い日はノンラー（三角の編み笠）を被って町中が三角頭で溢れ、とにかく毎日毎日、国のどこかでアイディアに満ちたデモが行われ、まるでそれを楽しんでいるかのように見えるのです。

小さな子供を含め殺された人は500人を超え、拘束された人たちは数もわかりません。それでも、諦めないで軍に不服従の姿勢を貫いているミャンマーの人たち。

日本人に足りないのはこれだと思ふのです。

どうしたら打開できるのか考える想像力、皆で団結して行動する決断力、そしてそれを楽しめるおおらかさ。彼らは決して余裕のある生活ではないけれど、お年寄りも若者も子供も一緒になって堂々と軍に抵抗する意思を示しています。諦めたらそこで終わりなのです。

ただ不平不満を並べるだけなら楽でいいです。文句大好き、日本人。でも、「行動しなければ何も変わらない！」ぜひ見習いたいものです。



我らを地面に埋めようとしている
人たちがいるが、

彼らが知らないのは
我らが種であることを

Facebookに届けられた
国軍に殺された詩人のポエム